

<認知症対応型共同生活介護用>

<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	10
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	4
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	1
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	7
1. その人らしい暮らしの支援	5
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	23

事業所番号	1471901254
法人名	特定非営利活動法人優游の朋
事業所名	グループホームひなたぼっこ
訪問調査日	令和8年3月18日
評価確定日	令和8年4月13日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は23項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和7年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471901254	事業の開始年月日	平成14年2月1日	
		指定年月日	平成14年2月1日	
法人名	特定非営利活動法人優游の朋			
事業所名	グループホームひなたぼっこ			
所在地	〒239-0843 横須賀市津久井2-2-51和賀ビル2階			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	8名	
		ユニット数	ユニット	
自己評価作成日	令和8年3月9日	評価結果 市町村受理日	令和8年4月28日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

若いスタッフから年配のスタッフによる介護により、より一層家庭的な雰囲気の中、それぞれの利用者様が安心して穏やかに生活を送れるよう、個々に必要とされるケアに注力しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和8年3月18日	評価機関 評価決定日	令和8年4月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●グループホームひなたぼっこは、特定非営利活動法人優游の朋の運営です。同法人は平成13年に横須賀の高齢者介護の充実を目指し設立され、現在は横須賀市と三浦市でグループホームを2ヶ所運営しています。グループホームひなたぼっこは、平成14年に横須賀市長沢で開設されてから16年間事業所運営を行っていましたが、平成31年に同市内の津久井に移転しました。移転に伴い周辺環境や居住環境は変わりましたが、法人で大切にしている「自由で、居心地がよく笑顔のあふれる生活」「家庭的な住みやすい環境」は津久井の地でも踏襲され事業所運営が行われています。立地は京浜急行「津久井浜駅」下車して10分程歩いた海沿いの国道134号線から1つ中の通りに入った県営津久井浜団地の手間に位置しています。

●食事支援については、開設当初から、職員による手作りの食事提供を継続して行っています。日々の食事は「生きがい」や「楽しみ」の創出だけでなく、栄養補給、身体機能維持、疾患予防、精神的安定等の多面的な役割を担っていることから、一般家庭と同じように冷蔵庫の食材を見ながら職員がメニューを考案したり、利用者の希望を取り入れながら、五感で食事を楽しんでいただけるよう支援しています。また、食材においても地元の食材(魚、野菜、果物)、地元の商店(豆腐屋)の物を提供することを意識しています。

●事業所では、20代から70代までの幅広い年齢層の職員や、在籍年数の長い職員が多く勤務していることから、職員の関係性も良好で、互いに得手不得手の部分を補い合うなど、家庭的な雰囲気が醸成されており、家庭的な環境のなかで、利用者が安心して穏やかに生活を送っていただけるよう、きめ細やかな支援が行われています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームひなたぼっこ
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症介護に関する地域の社会資源として事業運営すべく、自治体、民生委員、福祉推進員他、地域との関係を密にしつつ、ご利用者の安心と安全な生活を提供するための理念を努めている。	法人で大切にしている「自由で、居心地がよく笑顔のあふれる生活」「家庭的な住みやすい環境」を具現化するため、3つの理念を掲げています。開設当初に作成された理念を継続して掲げており、一貫したケアサービスの提供が行えるよう、フロアに掲示しています。		今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として、運営推進会議以外にも様々な交流に努めている。	町内会に加入しており、地域の情報は回覧場を通じて入手しています。町内会主催のビンゴ大会で景品を寄付したり、お祭りにも参加して交流を図っています。移転前に来て下っていたボランティアの来訪も継続してあります。今後は、保育園との交流やコミュニティセンターを活用するなど、地域との関わりを広げていきたいと考えています。		今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事や、町内会を通じ、認知症介護についての理解を深めていただけるように努めている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	構成員の皆様には、定期的な運営推進会議に参加していただき、意見、感想を聞き、サービスの向上に努めている。	市役所職員(年1回)、地域包括支援センター職員、民生委員、家族、法人理事長、管理者をメンバーとして年6回開催しています。次年度からは開催月を決めたうえで年6回開催する予定としています。運営推進会議では、事業所の現状や活動状況(写真付で)、あれば事故・ヒヤリハットについても報告し、参加者から意見や提案をいただきながらサービス向上に努めています。議事録はファイルに綴じて閲覧できるようにしています。		今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	横須賀市役所の職員の方に担当者とともに運営推進会議へ出席していただき、議事録で報告している。また、日頃から必要時に電話で連絡を取り合い、協力関係を築くことができている。	横須賀市の指導監査課、介護保険課とは必要に応じて都度連絡し、助言や相談に乗っていただきながら事業所運営を行っています。生活保護受給者の受入れを行っている関係で、生活支援課とも適宜連絡を取合いながら連携しています。地域包括支援センターとは運営推進会議への参加や空き情報を提供しています。昨年は、横須賀市のLAN伴にも参加しています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初から身体拘束は行っておらず、身体拘束についての弊害等を全ての職員が理解し、定期的に研修を行っている。	重要事項説明書13条に「身体拘束に関する対応」を明記しており、契約時に身体拘束は原則行わないことを説明しています。身体拘束適正化委員会では、実際に介護の現場で散見される事例を取上げたり、気になった声かけや対応についても、話し合いながら身体拘束をしないケアに努めています。また、身体拘束適正化委員会の開催に併せて研修も行っています。玄関は内側から自由に開けられるようにしており、実際に要介護1の方で自由に外出されている方もいます。	今後の継続
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に該当することが何なのかを全ての職員が理解している。研修は、外部の講師に依頼したり、施設内の研修では、基本的な部分から、スピーチロックなどの実際に起こり得る項目を学んでいる。	身体拘束適正化委員会の開催時に、虐待についても話し合いを行っています。実際に介護の現場で散見される事例を取上げたり、虐待の種類や定義について話し合いながら理解を深めています。管理者は、職員と話したり、様子を見ながら対応を変えるなどして、虐待の防止に努めています。アンガーマネジメントを取入れた研修や、虐待の芽チェックリストも行っています。	今後の継続
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部講師からの研修を受け、制度の理解を学び、活用に繋ぐ為の相談窓口等も把握している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分に時間をかけて説明を行い、意見をいただいている。説明の途中でも質問がないか確認をしながら進めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望は、日常的に誰もが受ける事のできる関係ができています。ご家族においては月末の報告や面会、電話、メール等を通じて双方向で利用者様の考えや思い等が行き来する関係であり、得られた情報を反映することに努めている。	家族からの意見や要望は、面会時に直接伺ったり、電話やメールなどのツールを活用しながら聴取しています。法人の理事長とLINEでつながっている方もおり、双方向に意見や要望が言えるようにしています。利用者の近況報告については、請求書と併せて送っている手紙でも伝えています。理念にも「家族との関わりを通じ、介護に関する相談等を重ねながら関係を深めます」と掲げており、家族が気兼ねなく相談や話をしやすい関係性の醸成を心掛けています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例ミーティング等により、様々な意見交換を行っている。日常的にも盛んに意見交換や相談、報告なども行われており、風通しの良い職員関係が構築されている。	20代から70代までの幅広い年齢層の職員や、在籍年数の長い職員が多く勤務していることから、職員の関係性も良好で、互いに得手不得手の部分を補い合うなど、家庭的な雰囲気が醸成されています。管理者や法人理事長も現場に入っており、現場で直接意見や提案を聴いたり、ミーティングでも意見交換するなど、風通しの良い職場環境となっています。	今後の継続
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護業界全体としては、非常に厳しい状況が続いているが、法人として可能な範囲で対応している。	利用者が安心して生活できる環境を確保するためにも、法人として職員の就業環境整備に努めています。法人理事長も現場に入り、職員から直接意見や提案を聴いたり、親睦会には職員の家族も参加するなど、家族ぐるみの付き合いになっています。また、非常勤から常勤職員への雇用、研修費用の負担など、職員が意欲や向上心を持って働ける環境が整備されています。	今後の継続
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのスキルの把握に努め、個々に必要とされる知識や技術をOJTを通じて身に付けてもらえるよう働きかけている。	入職時には、介護経験の有無問わず一定期間のOJTを行い、業務の流れや利用者の情報を伝えています。その際に職員の力量も把握し、必要な知識や技術を身につけてもらうようにしています。入職後は研修計画に基づき、毎月設定している研修テーマを個別にeランニングで学んでいます。eランニングだけでなく、職員から上がったものを研修に取入れることもあります。	今後の継続
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市の連絡協議会が無くなったことにより、それに代わるネットワークの構築を図りつつ、勉強会等があれば参加していく。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階での困りごと、不安なこと、要望について解決する方向性を共に考え、支援することで信頼関係を構築し、本人の安心に繋がる関わりを実践している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、入居1週間後、1ヶ月後を目安に双方で連絡を取り合って話をする機会を持つように心掛けている。その結果、ご家族との関係を深めることの足掛かりとなる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用前までの生活とは環境が異なることから、必要とする支援があきらかに変化することも多く、実際の生活の中から、その時に必要な支援を見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフが一方的に介護を提供する立場にならないように、日頃からゆったりと関わることのできる環境を確保し、生活の営みでご利用者に出来ることは見守りながら感謝の気持ちを伝えている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月送らせていただいている生活記録を通じ、ご利用者の様子を伝えつつ、必要に応じて連絡を取り合える関係性が出来上がっており、ご家族との協力関係は良好である。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設が長沢にあった当時から続いているボランティア訪問は、ご厚意により継続して津久井まで来ていただいている。今後はご近所に住んでいるボランティアへ移行する橋渡しもして下さり、良好な関係が続いている。また、ご利用者の馴染みの方も施設に面会に来て下さっている。	面会は制限を緩和(手指消毒は継続)して、いつでも家族、親類、友人が面会に来ていただけるようにしています。事業所内で感染者が出た場合や、世間での感染症流行状況に応じて面会制限措置を取るようにしています。移転前から来て下さっていたボランティアの来訪も継続しており、馴染みの関係も継続されています。訪問美容で来て下さっている方も気兼ねなく要望を伝えられるほどの間柄になっています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事や余暇時間など、ご利用者同士の談笑が多く見られる中、スムーズに交流が出来ない方へはスタッフがさり気なく間に入り、関係作りをしている。孤立しがちなご利用者については、スタッフが傍らで過ごすことで孤立しないようコミュニケーションの機会を作る対応を心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、当ホームの様子をうかがいにご家族が連絡を下さったり、訪ねて来てくださり、関係が続いている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや、その方なりの価値観を尊重している。ご本人、ご家族の意向に添えるよう、言葉だけでなく、表情からも察知するように努めて支援している。	入居前の面談で自宅、施設、病院に出向き、本人、家族、介護支援専門員、病院関係者から生活歴、既往歴、趣味嗜好品、暮らし方の希望を聴き取りながら入居申込書にアセスメントの情報を書き込んでいます。日々の関わりの中で本人が発した言葉や気づきなどの情報は経過記録にも転記して、職員間で情報を共有しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のあらゆる情報を収集し、より深く一人ひとりを把握出来るよう努めている。入居後の関わりの中から得られるものも多く集めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	グループホームでの生活がご自宅で過ごされていた一日の流れに沿うよう、ご本人の心身の状況に合わせた必要な援助を見極めるよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議時に担当者会議を実施し、モニタリングを行う事と併せ、細やかな変化を把握できるように日頃から努め、ご家族や、かかりつけ医に相談し、ご利用者がより良い生活が送れるように介護計画を作成している。	初回の介護計画はアセスメントの情報を基に作成し、入居後1ヶ月～2ヶ月の期間で1度担当者会議を開催して、アセスメントとモニタリングの結果を踏まえて、支援内容の加筆と修正を行い、現状に即した介護計画を作成しています。介護計画の見直しについては、入院等の特変がなければ半年に1回の見直しを基本とし、担当者会議でその方が必要とする介護と介助を見極めながら、本人に即した介護計画の作成につなげています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ間だけでなく、家族とも共有出来るよう、一人ひとりのケアや生活の様子、ご利用者の状態等を記載し、変化していく中で生活上の課題となるものが何であるかを把握できるよう心掛けて介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活全般に亘って、状況により生じる色々なニーズに対し、あらゆる面で工夫したり、柔軟に対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、町内会、ボランティア、地域包括、消防、警察、近隣住民等、様々な方の協力を得て、安心で安全な暮らしを確保出来るよう努めている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時の説明で決めていただいている。適切な医療が受けられることが前提にある事から、専門医による定期的な診察が必要な方については、かかりつけ医からの紹介により他医療機関にかかることもあり、歯科については必要に応じて往診の準備がある。	事業所の協力医療機関は「久里浜在宅クリニック」ですが、以前からのかかりつけ医(往診対応可)を継続している方も含めて内科は3ヶ所から往診に来ています。精神科(月2回)と歯科医は、希望者のみ契約して治療や口腔ケア、嚥下状態などを診ていただいています。訪問マッサージを受けている方もおり、1名の方はリハビリとマッサージを受けています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護スタッフの日頃の気付きを申し送りノートに書き留めたり、緊急度の高い事案については速やかに看護師に連絡を取り、対応することが出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	小さなことでも医療機関と相談し会える関係が整っており、早期退院等のご家族の希望にも親身になって相談に応じてもらえる関係が整っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から話し合いを重ねながら、状況の変化に伴い方向性や具体的なケア内容を検討し、納得のいく方法を選択している。看取り介護の要望に対しては、ご本人、ご家族のケア、職員のケア等丁寧に実施している。	重度化や終末期の指針を作成しており、入居時には指針に基づいて事業所で出来ること出来ないことについて説明を行い、同意書を取交わしています。実際に重度化し、主治医からも話しがあった段階で再度、今後の方針について話し合いの場を設けています。事業所での看取りを希望された場合には、主治医、事業所と看取りの同意書を取交わして、終末期支援に臨んでいます。事業所では看取りの研修や、看取り後にデスカンファレンスも行っています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応については、スタッフの多くが身に付けており、定期的に研修を行い、急変時の対応のシミュレーション訓練をして、見直しもやっている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	研修・訓練を行い、全ての職員が初動対応や垂直避難の方法を理解している。避難場所としては、町内会館を利用させていただく。	年2回の火災・地震を想定した訓練では、通報、消火、避難誘導の動きを確認しています。実際に避難所までお連れするのは様々な要因を加味したうえで現実的でない判断し、垂直避難をすることとしています。BCP(自然災害・感染症)の研修も年2回実施しています。今後、発電機の導入を検討しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職業倫理に照らし合わせ、我々の職種に求められる行動規範を振り返り確認する事を行い、日頃からプライバシーが損なわれることがないように心掛けている。また、プライバシー保護の研修を行い、学んでいる。	利用者の尊厳保持、プライバシー保護、自律支援、そして虐待禁止を核とし、日本介護福祉士会倫理綱領に基づいた対応を心がけています。入浴や排泄介助を行う際には、プライバシーと羞恥心に配慮しながら対応しています。個人情報の取扱いについては、入職時に誓約書を取交わしています。今年度の研修は外部講師を招聘したり、管理者が資料を作成して行われています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフそれぞれが各ご利用者からの希望や要望を受け止めることが出来るように努め、ご本人が決定したことについては、全職員がサポートできる体制をとっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いや考えに耳を傾け、表情も含めて希望を受け止めたり、察知するような対応をしている。業務優先ではなく、パーソンセンタードケアの考えに基づいて、日々の暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性、こだわり、好み等を大切に、希望に沿って、季節や場面ごとのおしゃれも楽しんでいただけるようお手伝いをしている。訪問理美容の際には、ご本人の希望の髪型を聞いている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	居間は、調理の音や香りが漂う位置にある。メニューのリクエストを聞いたり、野菜の下ごしらえや食事前のテーブル拭きをしていただいている。	食事支援については、開設当初から、職員による手作りの食事提供を継続して行っています。日々の食事は「生きがい」や「楽しみ」の創出だけでなく、栄養補給、身体機能維持、疾患予防、精神的安定等の多面的な役割を担っていることから、一般家庭と同じように冷蔵庫の食材を見ながら職員がメニューを考案したり、利用者の希望を取り入れながら、五感で食事を楽しんでいただくことを大切にしています。管理者が釣ってきた魚を解体ショーと称して目の前で捌いてお刺身を提供したり、食レクでホットケーキ、みかんゼリー、ジャム等も作っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事の提供に努めている。時間や回数に囚われず、ご本人の体調、力量、ペースや週間に合わせることも意識しています。水分量については、モニタリングを行い、かかりつけ医とも相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ADLと精神状態を考慮し、朝晩2回行っている。それ以上の必要性がある場合には状態に合わせて回数を設定し、方法も検討している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄能力とパターンを把握した上で、出来る限りトイレやポータブルトイレでの自然排泄を促している。オムツを使用している方も排泄のタイミングや尿量を把握し、個々に合わせた適切な時間に交換をしている。	現在は自立されている方も多く、自立している方は記録をつけていませんが、介入が必要な方のみ排泄記録をつけています。トイレの内装や便器の色もフロアごとに異なり、高級感やモダンな空間を意識した黒色や、インテリア性を意識した赤色(ワインレッド)など、通常の「トイレ」の概念を変える空間となっています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ服薬に頼らず、自然排便ができるよう、水分量を確保し、牛乳やオリゴ糖等を活用して工夫している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	定期的に入浴出来るように努めているが、ご本人の体調や気分によって時間や日程の調整を行っている。	グループホームのフロアは以前、新聞屋の寮として使われていた関係で、お風呂場(洗い場)や浴槽も広く、24時間の循環式になっています。風呂場からは海や海岸線を望むこともできるロケーションになっています。洗い場や浴槽が広い分、職員2名対応を原則とし、冬場はヒーターの使用と床をお湯で温めながらヒートショック対策を講じています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活のリズムに合わせており、日中の休息はもちろん、夜間の睡眠に関しても、巡回が睡眠の妨げにならないように配慮している。オムツ等を使用している方については、排泄のタイミングを把握し、適切な時間に交換することで安眠出来るよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の服用目的、用法、作用・副作用を理解している。体調の変化を観察し、往診時に適宜、経過の報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの個性や強みに合わせて支援している。家事への参加、散歩、読書、歌等、その時のご気分によって選択している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物等、個別の要望に応じられるよう、業務の調整を行い、天候に配慮しながら、その方の体調や体力に合った外出支援を行っている。	天気や気候の良い日には、すぐ横の公園、川沿い、車でスーパーやドラッグストアにお連れして買い物を楽しんでもらっています。また、コミュニティセンターの催しや町内の夏祭りにお連れして地域の方との交流を通して社会性を維持できるようにも支援しています。外出行事では、桜の花見ドライブ、久里浜花の国、菖蒲園、河津桜の花見ドライブにもお連れしています。要介護の低い方でお1人で外出されている方もいますが、ウェストポーチに事業所名と連絡先を取付けるなどの工夫をしています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の能力とご家族の希望を踏まえて対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人持ちの携帯電話を使用して通話したり、携帯を持っていない方は、遠方の親戚に手紙を書いたり、施設の電話を使用して連絡を取っている。			
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い居間兼食堂からは、東京湾を航海する船が見え、陽当たりの良い窓辺でひなたぼっこができ、のんびりと時間を感じられることができる。居間にはご利用者が制作した季節の展示物が飾っており、浴室も広い。	居間兼食堂の大きな窓からは東京湾を航海する船や、津久井浜で有名なウインドサーフィンを望むことができます。また、視界を遮るような建物も周囲にはなく、陽当たりも良いことから夏場はレースやカーテンで採光を調整しながら快適に過ごせるよう配慮しています。居間には季節の物（調査日にはひな人形）、利用者が作った手芸作品、行事の写真なども飾られています。ベランダに置いているプランターでは季節の野菜や花を栽培しており、お世話を日課にしている方もいます。食後の時間には皆さんで料理の感想を言い合ったりしながら、談笑を楽しまれています。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の3カ所にソファを置き、窓辺で本を読んだり、編み物をしたり、TVを観たり、ご利用者同士と一緒に座りながらおしゃべりをしたり、と思いいいに過ごしている。			
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた愛用の家具や寝具を持ち込んで頂いている。人によっては仏様を持って来ておられる。	グループホームのフロアは以前、新聞屋の寮として使われていた関係で、壁紙や間取りも異なっていますが、全ての居室は海側に面した南向きで明るく開放感を感じることができます。ベッド、テレビ、エアコンは備えつけとして完備されていますが、ご自身で使用していた物を持ち込んでいただくことも可能です。家族写真、家具（ダンス等）、ミシン、アイロン、冷蔵庫、畳みを敷かれている方もいます。また、自宅で飼っていた猫と一緒に入居されている方もいます。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の個々に持つ力に応じ、生活動線に必要な援助を行っている。危険回避のために手立てを施した上で、ご利用者の出来ること、分かることを活かして、出来る範囲での自立した生活を実現している。			

目 標 達 成 計 画

事業所 グループホーム ひなたぼっこ

作成日 令和8年3月18日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	49	現在は限定的な利用者限り日常的に散歩をしているが、外出は季節のお花を見に行くことが主となっており、介護度が高くなると機会も減ってしまっている。	全てのご利用者の希望に沿って外出の支援を行う。	外出の機会を増やし、ご利用者の希望に応じられるよう、業務の調整を行う。	1年
2	3	認知症の人への知識、支援を地域の方へ発信していない。	地域に向けて認知症への理解を深める活動を行う。	町内会への参加を増やし、回覧板等で発信する。	1年
3	14	同業者との交流は、連絡協議会が無くなって以降から無くなってしまった。	同業者と交流する機会を作り、ネットワークを構築する。	勉強会や研修途に参加して同業者との交流を図り、ネットワークを構築して、サービス向上に努める。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。